

株 主 各 位

東京都千代田区神田猿樂町一丁目2番1号

日本出版貿易株式会社

取締役社長 綾 森 豊 彦

第79回定時株主総会招集ご通知

拝啓 平素は格別のご高配を賜り厚くお礼申し上げます。

さて、当社第79回定時株主総会を下記により開催いたしますので、ご案内申し上げます。

なお、当日のご出席に代えて、書面によって議決権を行使することができますので、お手数ながら後記の株主総会参考書類をご検討のうえ、同封の議決権行使書用紙に議案に対する賛否をご表示いただき、2020年6月24日（水曜日）午後5時30分までに到着するようご返送くださいますようお願い申し上げます。

敬 具

記

1. 日 時 2020年6月25日（木曜日）午前10時
2. 場 所 東京都千代田区神田神保町1-32 日本出版クラブ 4階
(末尾の会場ご案内図をご参照ください。)
3. 目的事項
報告事項
 1. 第79期（2019年4月1日から2020年3月31日まで）事業報告、連結計算書類並びに会計監査人及び監査役会の連結計算書類監査結果報告の件
 2. 第79期（2019年4月1日から2020年3月31日まで）計算書類報告の件

決議事項

- 第1号議案 剰余金の処分の件
- 第2号議案 定款一部変更の件
- 第3号議案 取締役4名選任の件
- 第4号議案 監査役2名選任の件

以 上

~~~~~  
株主総会にご出席の株主の皆さまへのお土産のご用意はございません。何卒ご理解くださいますようお願い申し上げます。

当日ご出席の際は、お手数ながら同封の議決権行使書用紙を会場受付にご提出ください。また、議事資料として本冊子をご持参くださいますようお願い申し上げます。

なお、株主総会参考書類並びに事業報告、連結計算書類及び計算書類に修正が生じた場合は、インターネット上の当社ウェブサイト（<http://www.jptco.co.jp/>）に掲載させていただきます。

## 第79回定時株主総会における 新型コロナウイルス感染防止への対応について

当社第79回定時株主総会における、新型コロナウイルス感染防止に向けた当社の対応について、以下のとおりご案内させていただきます。

株主の皆様のご理解とご協力をお願い申し上げます。

### 記

#### 1. 株主様へのお願い

- 株主総会へのご出席を検討されている株主様におかれましては、当日までの健康状態にご留意いただき、くれぐれもご無理をなされませぬようお願いいたします。
- 前ページに記載のとおり、議決権行使は書面による方法もございます。ご検討ください。
- ご高齢の方や基礎疾患がある方、妊娠されている方におかれましては、特段のご留意をお願いいたします。

#### 2. 当社の対応について

- 株主総会に出席する取締役、監査役及び運営係員は、マスクを着用してご対応させていただく場合がございます。
- ご来場の株主様で体調不良と見受けられる方には、運営スタッフがお声がけをさせていただく場合がございますので、予めご了承ください。

#### 3. ご来場される株主様へ

- 株主総会会場におきましては、受付前に検温をさせていただく場合がございます。また、マスクのご着用やアルコール消毒液のご使用等のご協力をお願いする場合がございます。
- 会場内では、席を空けてご着席をお願いする場合がございます。

以上、ご理解並びにご協力を賜りますよう、宜しくお願い申し上げます。

今後の状況により株主総会の運営に大きな変更が生ずる場合は、当社ウェブサイト (<http://www.jptco.co.jp/>) にてお知らせいたします。

以上

(提供書面)

## 事業報告

(2019年4月1日から  
2020年3月31日まで)

### 1. 企業集団の現況

#### (1) 当事業年度の事業の状況

##### ① 事業の経過及び成果

当連結会計年度におけるわが国経済は、新型コロナウイルス感染症の影響により、企業の業況判断は悪化、個人消費も弱い動きとなり、改善の続いてきた雇用・所得環境も停滞傾向にあるなど、足下で大幅に下押しされており、厳しい状況にあります。また、海外経済においても、アメリカ、中国を含むアジア地域、ヨーロッパ地域など全世界的に感染症の影響により景気は足下で急速に減速しており、先行きについても、当面感染症の影響が続くと見込まれ、景気のさらなる下振れリスクが懸念されます。

当社グループにおける出版物・雑貨等の輸出事業は、語学書が堅調に推移、文具・雑貨類の輸出も増加したものの、売上依存度の高いCD輸出が苦戦、堅調に推移していた大学図書館向けマーケットも新型コロナウイルスの感染症の影響を受けた結果、減収となりました。また、洋書・メディアの輸入事業は、代理店を務める学術雑誌売上の低迷に歯止めがかからないものの、K-POPの大型新譜が相次いで発売され売上に大きく寄与したことに加え、大学向け英語テキスト販売及びネット向け販売も堅調に推移したことから増収となりました。為替につきましては、K-POPの仕入通貨である韓国ウォンがウォン安となった一方で、アメリカドルは比較的安定したことから、前年に比すれば減少したものの為替差益が計上され、営業外損益において利益を押し上げました。

その結果、当連結会計年度の売上高88億5千2百万円（前連結会計年度比1.0%増）、営業利益1億5千2百万円（前連結会計年度比49.8%増）、経常利益1億6千5百万円（前連結会計年度比42.2%増）、親会社株主に帰属する当期純利益1億8百万円（前連結会計年度比61.7%増）と、当期純利益でも1億円超となりました。

## 事業別の営業の概況

### (出版物・雑貨輸出事業)

輸出事業は、文具・雑貨類につきましては、各地展示会への出展・参加による新規仕入先の拡大、取引先への提案強化の継続により好調に推移、語学書においても旧来の取引先に加えネット事業者向けにも注力したことから売上拡大しております。しかしながら、売上依存度の高いCD輸出は大型新譜の発売が少なく旧譜の受注も低調であったことから苦戦しました。堅調に推移してまいりました大学図書館向けマーケットも新型コロナウイルスの感染症の影響により大学図書館が続々と休館となった結果、3月期の売上が急落し、減収となりました。利益面では、原価率は前年並みでありましたが、減収に比例し売上総利益が減少、対して業務効率化を目的としたシステム開発費用が増加し、営業利益は大きく減少いたしました。

その結果、当部門の売上高は14億9百万円（前連結会計年度比5.7%減）、営業利益は1千6百万円（前連結会計年度比55.5%減）となりました。

### (洋書事業)

代理店を務めております学術雑誌の売上減少に歯止めがかからず、日本語テキスト類の売上も新型コロナウイルス感染症の影響を受け、中国を中心とする留学生に渡航制限がかけられたことにより不調、外国人観光客の激減により店頭売上も低迷するなどマイナス要因が多かったものの、英語テキスト類の売上は、感染拡大の影響が3月期までは軽微に留まり大学向けには増収、高校、英語塾、英会話学校に対しても堅調に推移し、微増収となりました。利益面では、運賃、アルバイト人件費等の変動費が高騰する中、業務効率化により経費を圧縮した結果、営業利益は微増となりました。

その結果、当部門の売上高は33億6千7百万円（前連結会計年度比0.5%増）、営業利益は5千1百万円（前連結会計年度比1.4%増）となりました。

### (メディア事業)

主力商材である輸入CDにつきましては、K-POPの大型新譜のリリースが相次いでなされ、K-POPは旧譜の受注も好調に推移し、売上に大きく貢献いたしました。ネット事業向け売上も通期では拡大、現在人気を博している鬼滅の刃関連商品も少額ながら売上に寄与しております。一方、自社オリジナルシリーズを主体とするクラシックは苦戦が続いており、下げ止まり感の出てきた音響関連商品も新型コロナウイルス感染症の影響により中国での生産が止まりマイナス要因となりました。事業全体としては、K-POPの貢献は大きく、増収となりました。利益面では、K-POPの価格競争の激しさが若干緩和されたことにより原価率は改善、営業費用は運賃等の変動費の増加を最小限に止め、営業利益は大幅に増加いたしました。

その結果、当部門の売上高は31億5千6百万円（前連結会計年度比5.5%増）、営業利益は1億1千万円（前連結会計年度比104.4%増）となりました。

### (不動産賃貸事業)

本社でのテナント事業は、前年度満室稼働となった時期が7月であったことから、未一巡効果により増収となりました。また、原価につきましても前年度発生した一時的な修繕費用が当年度は発生していないため、原価率が改善し、営業利益も増加いたしました。

その結果、当部門の売上高は7千7百万円（前連結会計年度比2.5%増）、営業利益は4千3百万円（前連結会計年度比13.1%増）となりました。

- ② 設備投資の状況  
当連結会計年度においては重要な設備投資はありません。
- ③ 資金調達の状況  
当連結会計年度における増資あるいは社債発行による資金調達は行っておりません。
- ④ 事業の譲渡、吸収分割又は新設分割の状況  
該当事項はありません。
- ⑤ 他の会社の事業の譲受けの状況  
記載すべき重要な事項はありません。
- ⑥ 吸収合併又は吸収分割による他の法人等の事業に関する権利義務の承継の状況  
該当事項はありません。
- ⑦ 他の会社の株式その他の持分又は新株予約権等の取得又は処分の状況  
該当事項はありません。

## (2) 直前3事業年度の財産及び損益の状況

### ① 企業集団の財産及び損益の状況

| 区 分                     | 第76期<br>(2017年3月期) | 第77期<br>(2018年3月期) | 第78期<br>(2019年3月期) | 第79期<br>(当連結会計年度)<br>(2020年3月期) |
|-------------------------|--------------------|--------------------|--------------------|---------------------------------|
| 売上高(千円)                 | 8,390,107          | 8,542,939          | 8,766,870          | 8,852,015                       |
| 経常利益(千円)                | 68,044             | 80,129             | 116,153            | 165,150                         |
| 親会社株主に帰属<br>する当期純利益(千円) | 38,873             | 51,067             | 67,199             | 108,644                         |
| 1株当たり当期純利益(円)           | 55.73              | 73.22              | 96.36              | 155.79                          |
| 総資産(千円)                 | 6,043,308          | 6,177,090          | 6,252,864          | 5,987,747                       |
| 純資産(千円)                 | 1,434,432          | 1,476,300          | 1,512,393          | 1,580,672                       |
| 1株当たり純資産額(円)            | 2,056.68           | 2,116.75           | 2,168.63           | 2,266.53                        |

(注) 当社は、2017年10月1日付で普通株式について10株を1株とする併合を実施しております。これに伴い、第76期(2017年3月期)の期首に当該株式併合が行われたと仮定して、1株当たり当期純利益及び1株当たり純資産額を算定しております。

### ② 当社の財産及び損益の状況

| 区 分           | 第76期<br>(2017年3月期) | 第77期<br>(2018年3月期) | 第78期<br>(2019年3月期) | 第79期<br>(当期)<br>(2020年3月期) |
|---------------|--------------------|--------------------|--------------------|----------------------------|
| 売上高(千円)       | 8,030,344          | 8,117,334          | 8,348,445          | 8,409,654                  |
| 経常利益(千円)      | 66,970             | 87,567             | 125,024            | 159,582                    |
| 当期純利益(千円)     | 54,351             | 63,793             | 84,476             | 85,242                     |
| 1株当たり当期純利益(円) | 77.92              | 91.47              | 121.13             | 122.23                     |
| 総資産(千円)       | 5,913,272          | 6,039,872          | 6,184,523          | 5,914,570                  |
| 純資産(千円)       | 1,382,863          | 1,428,142          | 1,493,252          | 1,552,028                  |
| 1株当たり純資産額(円)  | 1,982.74           | 2,047.70           | 2,141.18           | 2,225.46                   |

(注) 当社は、2017年10月1日付で普通株式について10株を1株とする併合を実施しております。これに伴い、第76期(2017年3月期)の期首に当該株式併合が行われたと仮定して、1株当たり当期純利益及び1株当たり純資産額を算定しております。

### (3) 重要な親会社及び子会社の状況

#### ① 親会社の状況

該当事項はありません。

#### ② 子会社の状況

| 会社名               | 資本金           | 当社<br>議決権<br>比率 | 主要な事業内容    |
|-------------------|---------------|-----------------|------------|
| JPT AMERICA, INC. | 千米ドル<br>1,250 | %<br>100.0      | 出版物、雑貨の販売業 |
| JPT EUROPE LTD.   | 千ポンド<br>350   | %<br>100.0      | 出版物、雑貨の販売業 |
| HAKUBUNDO, INC.   | 千米ドル<br>253   | %<br>100.0      | 出版物、雑貨の販売業 |

### (4) 対処すべき課題

当社及び当社グループは、学術専門書、日本語学習書などの各種和書出版物、及び日本製の良質な文具・雑貨を広く世界の大学等の教育機関、小売店舗、ネットショップ等に輸出供給しております。また、輸入事業においては、国内の書店、大学生協、ネット事業者等を対象に海外の優良出版物・語学書の輸入販売、また、ホームセンター、量販店向けには雑貨・出版物を販売する等、わが国の貿易産業界に於いても、教育・文化を中心とした取扱商品は、その優位性を保持しており、今後とも事業拡大に向けた取引先との連携をより深めてまいります。一方で、国内外の昨今における紙媒体（書籍・雑誌）の需要減に加え、国内音楽市場の縮小に伴う大型新譜の減少による音楽CDの販売苦戦など、刻々と変化し続ける市場需要と新たな分野に対応する事業展開が今後の課題になっております。

厳しい環境下ではございますが、従来 of 輸出入事業で培った専門性と国内外の販路、そして当社グループの貴重な経営資源である海外子会社を加え、全てのネットワークを活かした総合戦略を推し進めてまいります。また、小学校英語教育の必修化による英語教育需要の高まりに対応した英語テキスト販売、及びオンライン英会話学校へのデジタル教材提供、主要メーカーとの協業を進めている文具・雑貨商品など、当社独自の強みを生かす提案を行うことにより引き続き拡大販売に努めてまいります。

当社の経営理念であります「私たちは文化事業を通じて、国際社会に貢献します」に則り、引き続き堅実な活動を継続して行く所存ですので、株主の皆様方におかれましては、今後ともなお一層のご支援、ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

(5) 主要な事業内容 (2020年3月31日現在)

当社グループは、出版物、音響関連商品及び雑貨の輸出入並びに貸室事業を行っております。

(6) 主要な営業所 (2020年3月31日現在)

|     |                   |                             |
|-----|-------------------|-----------------------------|
| 当 社 |                   | 本 社：東京都千代田区<br>九州営業所：福岡市中央区 |
| 子会社 | JPT AMERICA, INC. | California, U.S.A.          |
|     | JPT EUROPE LTD.   | London, U.K.                |
|     | HAKUBUNDO, INC.   | Hawaii, U.S.A.              |

(7) 使用人の状況 (2020年3月31日現在)

① 企業集団の使用人の状況

|         |                       |
|---------|-----------------------|
| 使 用 人 数 | 前 連 結 会 計 年 度 末 比 増 減 |
| 82名     | 7名(減)                 |

② 当社の使用人の状況

| 使 用 人 数 | 前 事 業 年 度 末 比 増 減 | 平 均 年 齢 | 平 均 勤 続 年 数 |
|---------|-------------------|---------|-------------|
| 70名     | 6名(減)             | 42.6歳   | 14.3年       |

(注) 上記表中の使用人数は就業員数であり、契約社員、嘱託、出向社員、臨時雇用者は含んでおりません。

(8) 主要な借入先の状況 (2020年3月31日現在)

| 借 入 先                   | 借 入 額     |
|-------------------------|-----------|
| 株 式 会 社 り そ な 銀 行       | 467,482千円 |
| 株 式 会 社 三 井 住 友 銀 行     | 231,643千円 |
| 株 式 会 社 三 菱 U F J 銀 行   | 200,000千円 |
| 株 式 会 社 み ず ほ 銀 行       | 50,000千円  |
| 株 式 会 社 商 工 組 合 中 央 金 庫 | 41,600千円  |



## (9) その他企業集団の現況に関する重要な事項

該当事項はありません。

## 2. 会社の現況

### (1) 株式の状況（2020年3月31日現在）

- ① 発行可能株式総数 2,400,000株
- ② 発行済株式の総数 700,000株
- ③ 株主数 364名（前期末比1名減）
- ④ 上位10名の株主

| 株主名              | 持株数     | 持株比率   |
|------------------|---------|--------|
| 株式会社 トーハン        | 1,500百株 | 21.50% |
| 丸善雄松堂株式会社        | 700百株   | 10.03% |
| 株式会社 講談社         | 554百株   | 7.94%  |
| 有限会社 宮脇商事        | 500百株   | 7.16%  |
| 中林和子             | 344百株   | 4.93%  |
| ファーストインベスターズ株式会社 | 241百株   | 3.45%  |
| 株式会社 三井住友銀行      | 240百株   | 3.44%  |
| 日本出版貿易取引先持株会     | 222百株   | 3.18%  |
| タスマン株式会社         | 200百株   | 2.86%  |
| 株式会社 大原本店        | 162百株   | 2.32%  |

- (注) 1. 持株数は、百株未満を切り捨てて表示しております。  
2. 持株比率は、小数点第2位未満を切り捨てて表示しております。  
3. 持株比率は、自己株式（2,603株）を控除して計算しております。

### (2) 新株予約権の状況

該当事項はありません。

### (3) 会社役員 の 状 況

#### ① 取締役及び監査役の状況 (2020年3月31日現在)

| 地 位       | 氏 名     | 担 当 及 び 重 要 な 兼 職 の 状 況    |
|-----------|---------|----------------------------|
| 代表取締役社長   | 綾 森 豊 彦 |                            |
| 常務取締役     | 近 藤 隆 一 | 事業管理部担当                    |
| 取 締 役     | 松 並 恒 次 | 仕入事業部担当                    |
| 取 締 役     | 林 恭 彦   | 国内事業部担当                    |
| 常 勤 監 査 役 | 宮 川 修   |                            |
| 監 査 役     | 片 岡 義 正 | 片岡税理士事務所、天馬株式会社取締役 (監査等委員) |
| 監 査 役     | 釜 井 隆 介 | 株式会社トーハン経営戦略部部長            |

- (注) 1. 監査役片岡義正、釜井隆介の2氏は、社外監査役であります。  
 2. 監査役片岡義正氏は、税理士の資格を有しており、財務及び会計に関する相当程度の知見を有しております。  
 3. 当社は、監査役片岡義正氏を東京証券取引所の定めに基づく独立役員として指定し、同取引所に届け出ております。

#### ② 事業年度中に退任した取締役及び監査役

| 氏 名     | 退 任 日       | 退 任 事 由 | 退 任 時 の 地 位 ・ 担 当 及 び 重 要 な 兼 職 の 状 況 |
|---------|-------------|---------|---------------------------------------|
| 志 村 真 嗣 | 2019年6月26日  | 辞任      | 株式会社トーハン・コンピュータ・サービス取締役副社長            |
| 吉 澤 和 宏 | 2019年12月27日 | 辞任      | 常務取締役                                 |

#### ③ 取締役及び監査役に支払った報酬等の総額

(単位：千円)

| 区 分                | 支 給 人 員    | 支 給 額             |
|--------------------|------------|-------------------|
| 取 締 役              | 5名         | 60,388            |
| 監 査 役<br>(うち社外監査役) | 4名<br>(3名) | 11,427<br>(3,600) |
| 合 計                | 9名         | 71,816            |

- (注) 1. 取締役の支給額には、使用人兼務取締役の使用人分給料は含まれておりません。  
 2. 取締役の報酬限度額は、2001年6月28日開催の第60回定時株主総会において年額120,000千円以内と決議いただいております。  
 3. 監査役の報酬限度額は、2009年6月25日開催の第68回定時株主総会において年額30,000千円以内と決議いただいております。

④ 社外役員に関する事項

イ. 他の法人等との兼任状況及び当社と当該他の法人等との関係

監査役片岡義正氏は、天馬株式会社の取締役（監査等委員）であります。なお、当社と同社との間には特別な関係はありません。

監査役釜井隆介氏は、現在当社の特定関係事業者であります株式会社トーハンの業務執行者であり、過去5年間においても同社業務執行者でありました。また、釜井隆介氏は、株式会社トーハンより過去2年間に使用人としての給与等を受けており、今後も受ける予定であります。

ロ. 当事業年度における主な活動状況

|          | 活動状況                                                                                                |
|----------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 監査役 片岡義正 | 当事業年度に開催された取締役会19回のうち19回、監査役会4回のうち4回に出席いたしました。主に税理士としての専門的見地から、取締役会の意思決定の妥当性・適正性を確保するための発言を行っております。 |
| 監査役 釜井隆介 | 2019年6月26日就任以降、当事業年度に開催された取締役会15回のうち15回、監査役会4回のうち4回に出席いたしました。他社管理部門における経験と知見から適宜発言を行っております。         |

⑤ 責任限定契約の内容の概要

当社と監査役片岡義正氏及び釜井隆介氏は、会社法第427条第1項の規定に基づき、同法第423条第1項の損害賠償責任を限定する契約を締結しております。

当該契約に基づく損害賠償責任の限度額は、法令が規定する最低責任限度額としております。

#### (4) 会計監査人の状況

① 名称 監査法人保森会計事務所

② 報酬等の額

|                                     | 報酬等の額    |
|-------------------------------------|----------|
| 当事業年度に係る会計監査人の報酬等の額                 | 19,000千円 |
| 当社及び子会社が会計監査人に支払うべき金銭その他の財産上の利益の合計額 | 19,000千円 |

(注) 当社と会計監査人との間の監査契約において、会社法に基づく監査と金融商品取引法に基づく監査の監査報酬等の額を明確に区分しておらず、実質的にも区分できませんので、当事業年度に係る会計監査人の報酬等の額にはこれらの合計額を記載しております。

③ 会計監査人の報酬等の額について監査役会が同意をした理由

監査役会は、取締役、社内関係部署及び会計監査人より必要な資料の入手、報告を受けた上で、会計監査人の監査計画の内容、会計監査の職務遂行状況、報酬見積りの算定根拠について確認し、審議した結果、これらについて適切であると判断したため、会計監査人の報酬等の額に同意しております。

④ 非監査業務の内容

該当事項はありません。

⑤ 会計監査人の解任又は不再任の決定の方針

監査役会は、会計監査人の職務の執行に支障がある場合等、その必要があると判断した場合は、株主総会に提出する会計監査人の解任又は不再任に関する議案の内容を決定いたします。

また、会計監査人が会社法第340条第1項各号に定める項目に該当すると認められる場合は、監査役全員の同意に基づき、会計監査人を解任いたします。この場合、監査役会が選定した監査役は、解任後最初に招集される株主総会において、会計監査人を解任した旨及びその理由を報告いたします。

## (5) 業務の適正を確保するための体制及び当該体制の運用状況

取締役の職務の執行が法令及び定款に適合することを確保するための体制と、その他会社の業務の適正を確保するための体制についての決定内容の概要は以下のとおりであります。

### ① 当社及び当社グループ会社の取締役、使用人の職務の執行が法令及び定款に適合することを確保するための体制

当社及び当社グループ会社は、「私たちは文化事業を通じて、国際社会に貢献します」という経営理念のもとに、法令遵守を経営の基本と位置づけ、「法令違反防止規程」「行動規範」等によって高い倫理観を当社及び当社グループ会社の取締役と使用人に求めると共に事業管理部担当取締役がコンプライアンスに関する業務を兼任し、業務執行が法令及び定款に適合する体制を構築する。また、事業管理部長が中心となり、監査役との連携を図りながら業務全般の内部監査を実施する。通常監査のほか特別に必要であると判断した場合は「内部監査規程」に基づき取締役社長の指示のもと内部監査を行う体制を整備する。各部署の関連法規についてはコンプライアンス確保のため使用人の教育、指導及び社内規定の適正な制定と運用を行う等、継続的研修等を通じ内容を周知徹底させ、監査役、顧問弁護士と迅速な連絡体制を整備する。

### ② 当社の取締役の職務の執行に係る情報の保存及び管理に関する体制

取締役の職務の執行に係る情報については「文書保存規程」に定めるところにより文書（紙または電磁的媒体）にし、保存及び管理する。取締役及び監査役は必要に応じてこれらの閲覧を常時行うことができる。また、グループ各社においても、これに準拠した体制を構築する。

### ③ 当社及び当社グループ会社の損失の危険の管理に関する規程その他の体制

リスクの内容に応じて各事業部及び事業管理部の本部長等がそれぞれの役割に応じたリスクマネジメントを行い、損失の最小化を図る。また監査役、会計監査人との連携を図り、この観点からもリスクの低減、回避に努める。

### ④ 当社及び当社グループ会社の取締役の職務の執行が効率的に行われることを確保するための体制

原則的には「取締役会規則」「職制規程」「会議処理及び運営規程」等の社内規則により効率的に職務の執行を行う。具体的には取締役会を毎月1回定時に開催するほか、必要に応じて臨時に開催し、営業状況やその他各業務全般の執行状況の把握を行い、取締役相互の職務の執行を監視するとともに取締役間の意思疎通を図る。取締役会決議事項以外の意思決定機関として、取締役及び監査役並びに部長以上の幹部社員で構成される経営会議を毎月1回以上開催し、経営に関する重要課題の討議決定を行うことで、業務の執行が効率的に行われるようにする。

- ⑤ 当社及び当社グループ会社から成る企業集団における業務の適正を確保するための体制

各子会社の担当取締役は社内規則（関係会社管理規程）に従い定期的に業績、財務状況の報告を求め内容の確認を行い必要に応じて本社の取締役会及び経営会議で報告する。また子会社の責任者を通じて使用人に対する教育指導を行う。さらに主要な子会社については会計監査人が定期的実施している会計監査の結果を活用し業務の適正を確保する。

- ⑥ 当社の監査役がその職務を補助すべき使用人を置くことを求めた場合における当該使用人に関する事項

監査役の求めに応じて取締役会は監査役と協議し補助すべき使用人を他部署との兼務で必要な期間置くことができることとする。

- ⑦ 前号の使用人の当社取締役からの独立に関する事項

取締役会により指名された使用人に対する指揮権は監査役に移譲されたものとし、当該使用人の人事異動・人事考課等を行う場合はあらかじめ監査役と相談し、意見を求める。

- ⑧ 当社及び当社グループ会社の取締役および使用人が当社の監査役に報告をするための体制、その他当社監査役の監査が実効的に行われることを確保するための体制及び報告をしたことを理由として不利な取扱いを受けないことを確保するための体制

監査役は、法令が定める権限を行使するとともに、内部監査部門及び会計監査人と連携して、監査役会が定める「監査役会規程」及び「監査役監査基準」に則り、取締役の職務執行の適正性について監査を実施する。監査役は当社の重要なすべての会議に出席することができるため、その場で報告を受け質問することができる意見を述べることができる。またすべての資料をいつでも閲覧することができるようになっており、必要に応じて調査を求めることができる。また取締役及び使用人は会社の目的以外の行為、その他法令・定款違反をするおそれがある事項及び会社に著しい損害を及ぼすおそれのある事項を発見した場合は報告する。さらに役職員の監査役監査に対する理解を深め、監査役監査の環境整備に努める。また、当社の監査役に報告を行った当社及びグループ子会社の取締役及び使用人が、報告をしたことを理由としていかなる不利な取扱いを受けないことを周知、徹底する。なお、監査役の職務執行に必要な費用は、当社が負担する。

⑨ 反社会的勢力を排除するための体制

当社は行動規範に「私達は社会の秩序や安全に脅威を与える反社会的勢力に対し利益供与を行いません。くわえて不当な要求には応じません。」と定め、基本的な考え方を示すとともに、周知を図る。また、反社会的勢力に対しては顧問弁護士、所轄警察署等の外部専門機関と連携する等、組織的に対応する。さらに、警視庁管内特殊暴力防止対策連合会に加盟し、関連情報の収集、最新情報の把握に努める。

⑩ 業務の適正を確保するための体制の運用状況の概要

当社は上記に掲げた内部統制システムの整備をしておりますが、その基本方針に基づき、当事業年度におきましては、以下の具体的な取り組みを行っております。

- ・当社の取締役会は取締役4名と社外監査役を含む監査役3名で構成され、経営の基本方針、法令で定められた事項やその他経営に関する重要事項を十分に論議したうえで決定し、取締役の業務の執行状況の監督を行っております。当事業年度は、19回開催されております。
- ・監査役会は4回開催されております。監査役は取締役会、経営会議、その他重要な会議にも出席しております。また、定期的に代表取締役や会計監査人とも意見交換を行うことや、稟議書の確認を毎月行い、必要に応じて調査を行なうことで監査の実効性を高めております。
- ・内部監査室において、当社及び子会社における内部統制システムの運用状況について重要な不備がないかの確認を行っております。内部統制の実施状況は逐一社長及び監査役に報告し、業務執行部門の監査状況を把握しております。

(6) 会社の支配に関する基本方針

該当事項はありません。

# 連結貸借対照表

(2020年3月31日現在)

| 資 産 の 部         |                  | 負 債 の 部              |                  |
|-----------------|------------------|----------------------|------------------|
|                 | 千円               |                      | 千円               |
| <b>流 動 資 産</b>  | <b>4,926,872</b> | <b>流 動 負 債</b>       | <b>3,845,676</b> |
| 現金及び預金          | 721,266          | 支払手形及び買掛金            | 2,275,832        |
| 受取手形及び売掛金       | 2,571,611        | 短期借入金                | 855,168          |
| 商 品             | 1,307,349        | リース債務                | 11,029           |
| 貯 蔵 品           | 33               | 未払法人税等               | 38,628           |
| 前 渡 金           | 282,460          | 前 受 金                | 400,513          |
| その他の流動資産        | 46,418           | 賞与引当金                | 24,469           |
| 貸倒引当金           | △2,267           | 返品調整引当金              | 46,293           |
| <b>固 定 資 産</b>  | <b>1,060,874</b> | その他の流動負債             | 193,741          |
| <b>有形固定資産</b>   | <b>791,077</b>   | <b>固 定 負 債</b>       | <b>561,398</b>   |
| 建 物             | 91,921           | 長期借入金                | 135,557          |
| 車 輛 運 搬 具       | 2,881            | リース債務                | 17,885           |
| リ ー ス 資 産       | 23,387           | 退職給付に係る負債            | 180,755          |
| 土 地             | 667,900          | 再評価に係る繰延税金負債         | 187,998          |
| その他の有形固定資産      | 4,986            | その他の固定負債             | 39,200           |
| <b>無形固定資産</b>   | <b>43,160</b>    | <b>負 債 合 計</b>       | <b>4,407,075</b> |
| の れ ん           | 4,398            | 純 資 産 の 部            |                  |
| その他の無形固定資産      | 38,761           | <b>株 主 資 本</b>       | <b>1,191,177</b> |
| <b>投資その他の資産</b> | <b>226,636</b>   | 資 本 金                | 430,000          |
| 投資有価証券          | 116,274          | 資 本 剰 余 金            | 195,789          |
| 繰延税金資産          | 93,130           | 利 益 剰 余 金            | 571,559          |
| その他の投資          | 23,421           | 自 己 株 式              | △6,171           |
| 貸倒引当金           | △6,189           | その他の包括利益累計額          | 389,494          |
| <b>資 産 合 計</b>  | <b>5,987,747</b> | その他有価証券評価差額金         | 5,814            |
|                 |                  | 土地再評価差額金             | 425,975          |
|                 |                  | 為替換算調整勘定             | △27,240          |
|                 |                  | 退職給付に係る調整累計額         | △15,054          |
|                 |                  | <b>純 資 産 合 計</b>     | <b>1,580,672</b> |
|                 |                  | <b>負 債 純 資 産 合 計</b> | <b>5,987,747</b> |



# 連結損益計算書

(2019年4月1日から  
2020年3月31日まで)

| 科 目                           | 金 額    | 金 額       |
|-------------------------------|--------|-----------|
|                               | 千円     | 千円        |
| 売 上 高                         |        | 8,852,015 |
| 売 上 原 価                       |        | 7,280,880 |
| 売 上 総 利 益                     |        | 1,571,135 |
| 販 売 費 及 び 一 般 管 理 費           |        | 1,418,893 |
| 営 業 利 益                       |        | 152,242   |
| 営 業 外 収 益                     |        |           |
| 受 取 利 息 及 び 配 当 金             | 4,408  |           |
| 為 替 差 益                       | 12,442 |           |
| そ の 他 の 営 業 外 収 益             | 3,362  | 20,213    |
| 営 業 外 費 用                     |        |           |
| 支 払 利 息                       | 6,355  |           |
| そ の 他 の 営 業 外 費 用             | 949    | 7,305     |
| 経 常 利 益                       |        | 165,150   |
| 特 別 利 益                       |        |           |
| 投 資 有 価 証 券 売 却 益             | 100    | 100       |
| 特 別 損 失                       |        |           |
| 固 定 資 産 除 却 損                 | 46     | 46        |
| 税 金 等 調 整 前 当 期 純 利 益         |        | 165,203   |
| 法 人 税 、 住 民 税 及 び 事 業 税       | 61,905 |           |
| 法 人 税 等 調 整 額                 | △5,346 | 56,558    |
| 当 期 純 利 益                     |        | 108,644   |
| 親 会 社 株 主 に 帰 属 す る 当 期 純 利 益 |        | 108,644   |

# 連結株主資本等変動計算書

(2019年4月1日から  
2020年3月31日まで)

(単位：千円)

|                                   | 株 主 資 本 |           |           |         |             |
|-----------------------------------|---------|-----------|-----------|---------|-------------|
|                                   | 資 本 金   | 資 本 剰 余 金 | 利 益 剰 余 金 | 自 己 株 式 | 株 主 資 本 合 計 |
| 2019年4月1日 期首残高                    | 430,000 | 195,789   | 483,836   | △6,171  | 1,103,455   |
| 連結会計年度中の変動額                       |         |           |           |         |             |
| 親会社株主に帰属する<br>当期純利益               |         |           | 108,644   |         | 108,644     |
| 剰余金の配当                            |         |           | △20,921   |         | △20,921     |
| 株主資本以外の<br>項目の連結会計年度中<br>の変動額(純額) |         |           |           |         |             |
| 連結会計年度中の変動額合計                     | —       | —         | 87,722    | —       | 87,722      |
| 2020年3月31日 期末残高                   | 430,000 | 195,789   | 571,559   | △6,171  | 1,191,177   |

|                                   | そ の 他 の 包 括 利 益 累 計 額 |              |              |                  |                                 | 純資産合計     |
|-----------------------------------|-----------------------|--------------|--------------|------------------|---------------------------------|-----------|
|                                   | その他有価証券<br>評価差額金      | 土地再評価<br>差額金 | 為替換算<br>調整勘定 | 退職給付に係る<br>調整累計額 | そ の 他 の<br>包 括 利 益<br>累 計 額 合 計 |           |
| 2019年4月1日 期首残高                    | 11,359                | 425,975      | △25,656      | △2,740           | 408,938                         | 1,512,393 |
| 連結会計年度中の変動額                       |                       |              |              |                  |                                 |           |
| 親会社株主に帰属する<br>当期純利益               |                       |              |              |                  |                                 | 108,644   |
| 剰余金の配当                            |                       |              |              |                  |                                 | △20,921   |
| 株主資本以外の<br>項目の連結会計年度中<br>の変動額(純額) | △5,544                | —            | △1,584       | △12,314          | △19,443                         | △19,443   |
| 連結会計年度中の変動額合計                     | △5,544                | —            | △1,584       | △12,314          | △19,443                         | 68,279    |
| 2020年3月31日 期末残高                   | 5,814                 | 425,975      | △27,240      | △15,054          | 389,494                         | 1,580,672 |

## 連結注記表

### 1. 連結計算書類作成のための基本となる重要な事項

#### (1) 連結の範囲に関する事項

##### ① 連結子会社の数 3社

連結子会社の名称

JPT AMERICA, INC.

JPT EUROPE LTD.

HAKUBUNDO, INC.

##### ② 非連結子会社の数 1社

非連結子会社の名称

JPT FRANCE S. A. R. L.

(連結の範囲から除いた理由)

非連結子会社は、小規模であり総資産、売上高、当期純損益（持分に見合う額）及び利益剰余金（持分に見合う額）等は、いずれも僅少で連結財務諸表に重要な影響を及ぼしておりません。

#### (2) 持分法の適用に関する事項

##### ① 持分法適用の関連会社

該当事項はありません。

##### ② 持分法を適用していない非連結子会社（JPT FRANCE S. A. R. L.）は、当期純損益（持分に見合う額）及び利益剰余金（持分に見合う額）等からみて、持分法の対象から除いても連結財務諸表に及ぼす影響が軽微であり、かつ、全体としても重要性がないため持分法の適用範囲から除外しております。

#### (3) 連結子会社の事業年度等に関する事項

連結子会社の決算日はすべて12月31日であります。連結計算書類の作成にあたっては、各社の同日現在の計算書類を使用し、連結決算日との間に生じた重要な取引については、連結上必要な調整を行っております。

#### (4) 会計方針に関する事項

##### ① 重要な資産の評価基準及び評価方法

###### (イ) たな卸資産

主として移動平均法による原価法（貸借対照表価額については収益性の低下に基づく簿価切下の方法）

###### (ロ) その他有価証券

時価のあるもの

連結決算日の市場価格等に基づく時価法（評価差額は全部純資産直入法により処理し、売却原価は、移動平均法により算定）によっております。

時価のないもの

移動平均法による原価法によっております。

###### (ハ) デリバティブ

時価法によっております。

② 重要な減価償却資産の減価償却方法

(イ) 有形固定資産

定額法によっております。なお、主な耐用年数は以下のとおりであります。

建物 8～50年

ただし、取得価額100千円以上200千円未満の少額減価償却資産については、3年間で均等償却する方法を採用しております。

(ロ) 無形固定資産

定額法によっております。ただし、自社利用によるソフトウェアについては、社内における利用可能期間（5年）に基づく定額法によっております。

(ハ) リース資産

リース期間を耐用年数とし、残存価額を零とする定額法を採用しております。

③ 重要な引当金の計上基準

(イ) 貸倒引当金

売掛金、貸付金等当連結会計年度末に有する債権の貸倒れによる損失に備えるため、一般債権については貸倒実績率により、貸倒懸念債権等の特定の債権については個別に回収可能性を検討し、回収不能見込額を計上しております。

(ロ) 賞与引当金

従業員に対する賞与の引当額として当連結会計年度に負担すべき翌期支給見込額を計上しております。

ただし、在外連結子会社は賞与支給の定めがないので、引当金の計上は行っておりません。

(ハ) 返品調整引当金

英語教科書等の取次出版物の返品による損失に備えるため、一定期間の売上高に返品実績率及び売買利益率を乗じて算出した損失見込額を計上しております。

④ のれんの償却方法及び償却期間

のれんの償却については、5年間の定額法により償却を行っております。

⑤ 重要な外貨建の資産又は負債の本邦通貨への換算の基準

外貨建金銭債権債務は、連結決算日の直物為替相場により円貨に換算し、換算差額は損益として処理しております。

なお、在外子会社等の資産及び負債は、決算日の直物為替相場により円貨に換算し、収益及び費用は期中平均相場により円貨に換算し、換算差額は純資産の部における為替換算調整勘定に含めております。

⑥ その他連結計算書類作成のための重要な事項

(イ) 退職給付に係る会計処理の方法

退職給付債務の算定にあたり、退職給付見込額を当連結会計年度末までの期間に帰属させる方法については、期間定額基準によっております。

数理計算上の差異については、各連結会計年度の発生時における従業員の平均残存勤務期間以内の一定の年数（主として10年）による定率法により按分した額をそれぞれ発生の翌連結会計年度から費用処理しております。過去勤務費用については、その発生時における従業員の平均残存勤務期間以内の一定の年数（主として10年）による定額法により費用処理しております。

(ロ) 消費税等の会計処理方法

税抜方式によっております。

## 2. 連結貸借対照表に関する注記

### (1) 担保に供している資産及び担保に係る債務

#### ① 担保に供している資産

|        |           |
|--------|-----------|
| 建 物    | 57,807千円  |
| 土 地    | 667,900千円 |
| 投資有価証券 | 47,932千円  |

---

計 773,640千円

#### ② 担保に係る債務

|                |           |
|----------------|-----------|
| 短期借入金          | 700,000千円 |
| 一年以内返済予定の長期借入金 | 69,968千円  |
| 長期借入金          | 129,157千円 |

---

計 899,125千円

### (2) 有形固定資産の減価償却累計額

740,667千円

### (3) 土地の再評価

土地の再評価に関する法律（平成10年3月31日公布法律第34号）及び土地の再評価に関する法律の一部を改正する法律（平成13年3月31日公布法律第19号）に基づき、事業用土地の再評価を行い、土地再評価差額金を純資産の部に、税効果相当額（再評価に係る繰延税金負債）を負債の部に、それぞれ計上しております。

#### (イ) 再評価の方法

土地の再評価に関する法律施行令（平成10年3月31日公布政令第119号）第2条第5項に定める「不動産鑑定士による鑑定評価による方法」により算出しております。

#### (ロ) 再評価を行った年月日 2002年3月31日

### 3. 連結株主資本等変動計算書に関する注記

#### (1) 発行済株式の総数に関する事項

| 株式の種類 | 当連結会計年度期首の株式数 | 当連結会計年度増加株式数 | 当連結会計年度減少株式数 | 当連結会計年度末の株式数 |
|-------|---------------|--------------|--------------|--------------|
| 普通株式  | 700,000株      | 一株           | 一株           | 700,000株     |

#### (2) 自己株式の数に関する事項

| 株式の種類 | 当連結会計年度期首の株式数 | 当連結会計年度増加株式数 | 当連結会計年度減少株式数 | 当連結会計年度末の株式数 |
|-------|---------------|--------------|--------------|--------------|
| 普通株式  | 2,603株        | 一株           | 一株           | 2,603株       |

#### (3) 剰余金の配当に関する事項

##### (イ) 配当金支払い額

| 決議                   | 株式の種類 | 配当金の総額   | 1株当たり配当金 | 基準日        | 効力発生日      |
|----------------------|-------|----------|----------|------------|------------|
| 2019年6月26日<br>定時株主総会 | 普通株式  | 20,921千円 | 30円      | 2019年3月31日 | 2019年6月27日 |

(ロ) 基準日が当連結会計年度に属する配当のうち、配当の効力発生日が翌連結会計年度になるもの

| 決議予定                 | 株式の種類 | 配当の原資 | 配当金の総額   | 1株当たり配当金 | 基準日        | 効力発生日      |
|----------------------|-------|-------|----------|----------|------------|------------|
| 2020年6月25日<br>定時株主総会 | 普通株式  | 利益剰余金 | 20,921千円 | 30円      | 2020年3月31日 | 2020年6月26日 |

#### (4) 当連結会計年度末日における新株予約権に関する事項

該当事項はありません。

### 4. 金融商品に関する注記

#### 1. 金融商品の状況に関する事項

##### (1) 金融商品に対する取組方針

当社は、資金計画に照らして、必要な資金（主に銀行借入）を調達しております。一時的な余資は短期的な預金等に限定し、また、運転資金を銀行借入により調達しております。デリバティブは、後述するリスクを回避するために利用しており、投機的な取引は行わない方針であります。

(2) 金融商品の内容及びそのリスク

営業債権である受取手形及び売掛金は、顧客の信用リスクに晒されております。また、外貨建ての営業債権は、為替の変動リスクに晒されておりますが、一部の営業債権について先物為替予約を利用してヘッジしております。

投資有価証券は、市場価格の変動リスクに晒されております。また、取引先企業等に対し、貸付を行っております。

営業債務である支払手形及び買掛金は、そのほとんどが短期間の支払期日であります。また、外貨建ての営業債務については、為替の変動リスクに晒されておりますが、先物為替予約を利用してヘッジしております。

借入金、ファイナンス・リース取引に係るリース債務は、主に設備投資、運転資金に係る資金調達を目的としたものであり、金利の変動リスクに晒されております。

デリバティブ取引は、外貨建ての営業債権債務に係る為替の変動リスクに対するヘッジを目的とした先物為替予約取引等であります。

(3) 金融商品に係るリスク管理体制

① 信用リスク（取引先の契約不履行等に係るリスク）の管理

当社は、債権管理の社内管理規程に基づき、営業債権及び貸付金について、営業部門並びに管理部門が取引先の状況を定期的にモニタリングし、取引相手ごとに期日及び残高を管理するとともに、財務状況等の悪化等による回収懸念の早期把握や軽減を図っております。連結子会社についても、当社の管理規程に準じて同様の管理を行っております。

デリバティブ取引については、取引相手先を高格付を有する金融機関に限定しているため、信用リスクはほとんどないと認識しております。

② 市場リスク（為替や金利等の変動リスク）の管理

当社は、外貨建ての営業債権債務について、通貨別月別に把握された為替の変動リスクに対して、先物為替予約を利用してヘッジしております。

投資有価証券については、定期的に時価や発行体（取引先企業）の財務状況を把握しております。デリバティブ取引の執行・管理については、取引権限及び取引限度額等を定めた社内規程に従い、担当部署が決裁担当者の承認を得て行っております。

③ 資金調達に係る流動性リスク（支払期日に支払を実行できなくなるリスク）の管理

当社は、各部署からの報告に基づき資金計画を作成・更新するとともに、手許流動性の維持などにより流動性リスクを管理しております。

(4) 金融商品の時価等に関する事項についての補足説明

金融商品の時価には、市場価格に基づく価額のほか、市場価格がない場合には合理的に算定された価額が含まれております。当該価額の算定においては変動要因を織り込んでいるため、異なる前提条件等を採用することにより、当該価額が変動することがあります。

## 2. 金融商品の時価等に関する事項

2020年3月31日における連結貸借対照表計上額、時価及びこれらの差額については、次のとおりであります。なお、時価を把握することが極めて困難と認められるものは含まれておりません。

|                  | 連結貸借対照表<br>計上額 (千円) | 時価 (千円)   | 差額 (千円) |
|------------------|---------------------|-----------|---------|
| (1) 現金及び預金       | 721,266             | 721,266   | —       |
| (2) 受取手形及び売掛金    | 2,571,611           | 2,571,611 | —       |
| (3) 投資有価証券       | 107,910             | 107,910   | —       |
| 資産計              | 3,400,788           | 3,400,788 | —       |
| (1) 支払手形及び買掛金    | 2,275,832           | 2,275,832 | —       |
| (2) 短期借入金        | 855,168             | 855,184   | 16      |
| (3) リース債務 (流動負債) | 11,029              | 10,998    | △30     |
| (4) 長期借入金        | 135,557             | 135,520   | △36     |
| (5) リース債務 (固定負債) | 17,885              | 17,694    | △191    |
| 負債計              | 3,295,473           | 3,295,231 | △242    |

(注) 1. 金融商品の時価の算定方法並びに有価証券及びデリバティブ取引に関する事項

### 資 産

#### (1) 現金及び預金、(2) 受取手形及び売掛金

これらは短期間で決済されるものであるため、時価は帳簿価額と近似していることから、当該帳簿価額によっております。

#### (3) 投資有価証券

これらの時価について、株式等は取引所の価格によっており、債券は取引所の価格又は取引金融機関等から提示された価格によっております。

### 負 債

#### (1) 支払手形及び買掛金

これらは短期間で決済されるものであるため、時価は帳簿価額と近似していることから、当該帳簿価額によっております。



- (2) 短期借入金、(3) リース債務（流動負債）、(4) 長期借入金、(5) リース債務（固定負債）

これらの時価は、元利金の合計額を、同様の新規借入又はリース取引を行った場合に想定される利率で割り引いた現在価値により算定しております。

2. 時価を把握することが極めて困難と認められる金融商品

| 区分    | 連結貸借対照表計上額（千円） |
|-------|----------------|
| 非上場株式 | 8,364          |

これらについては、市場価格がなく、時価を把握することが極めて困難と認められることから、「(3) 投資有価証券」には含めておりません。

5. 賃貸等不動産に関する注記

(1) 賃貸不動産の状況に関する事項

当社は、賃貸用のオフィスビル（土地を含む）を有しております。2020年3月期における当該賃貸等不動産に関する賃貸損益は45,147千円（賃貸収益は売上高に、主な賃貸費用は売上原価に計上）であります。

また、当該賃貸等不動産の連結貸借対照表計上額、当連結会計年度増減額及び時価は、次のとおりであります。

(2) 賃貸不動産の時価に関する事項

| 連結貸借対照表計上額（千円） |            |            | 当連結会計年度末の時価<br>（千円） |
|----------------|------------|------------|---------------------|
| 当連結会計年度期首残高    | 当連結会計年度増減額 | 当連結会計年度末残高 |                     |
| 269,114        | △3,781     | 265,332    | 549,777             |

(注) 1. 連結貸借対照表計上額は、取得原価から減価償却累計額を控除した金額であります。

2. 当連結会計年度末の時価は、社外の不動産鑑定士による「不動産調査報告書」に基づく金額であります。

6. 1株当たり情報に関する注記

- ① 1株当たり純資産額 2,266円53銭  
② 1株当たり当期純利益 155円79銭

7. 重要な後発事象に関する注記

該当事項はありません。

8. その他の注記

該当事項はありません。

# 貸借対照表

(2020年3月31日現在)

| 資 産 の 部         | 千円               | 負 債 の 部              | 千円               |
|-----------------|------------------|----------------------|------------------|
| <b>流 動 資 産</b>  | <b>4,669,395</b> | <b>流 動 負 債</b>       | <b>3,823,831</b> |
| 現金及び預金          | 530,046          | 買掛金                  | 2,269,844        |
| 電子記録債権          | 9,041            | 短期借入金                | 750,000          |
| 売掛金             | 2,691,895        | 一年以内返済予定の長期借入金       | 105,168          |
| 商 品             | 1,129,008        | リース債務                | 11,029           |
| 貯 蔵 品           | 33               | 未払金                  | 152,090          |
| 前 渡 金           | 282,460          | 未払費用                 | 17,275           |
| 前 払 費 用         | 2,693            | 未払法人税等               | 38,628           |
| その他の流動資産        | 26,163           | 前受金                  | 396,344          |
| 貸倒引当金           | △1,949           | 預り金                  | 4,223            |
| <b>固 定 資 産</b>  | <b>1,245,174</b> | 賞与引当金                | 24,469           |
| <b>有形固定資産</b>   | <b>756,717</b>   | 返品調整引当金              | 46,293           |
| 建 物             | 63,774           | その他の流動負債             | 8,464            |
| 車 輜 運 搬 具       | 0                | <b>固 定 負 債</b>       | <b>538,710</b>   |
| 器 具 及 び 備 品     | 1,655            | 長期借入金                | 135,557          |
| リース資産           | 23,387           | 長期預り金                | 22,930           |
| 土 地             | 667,900          | リース債務                | 17,885           |
| <b>無形固定資産</b>   | <b>38,196</b>    | 退職給付引当金              | 159,057          |
| ソフトウェア          | 29,231           | 再評価に係る繰延税金負債         | 187,998          |
| 電話加入権           | 4,330            | その他の固定負債             | 15,280           |
| リース資産           | 4,634            | <b>負 債 合 計</b>       | <b>4,362,541</b> |
| <b>投資その他の資産</b> | <b>450,261</b>   | <b>純 資 産 の 部</b>     |                  |
| 投資有価証券          | 112,560          | <b>株 主 資 本</b>       | <b>1,120,238</b> |
| 関係会社株式          | 257,868          | 資 本 金                | 430,000          |
| 出 資 金           | 510              | 資 本 剰 余 金            | 195,789          |
| 長期貸付金           | 2,399            | 資 本 準 備 金            | 195,789          |
| 長期前払費用          | 133              | 利 益 剰 余 金            | 500,620          |
| 繰延税金資産          | 80,706           | 利 益 準 備 金            | 9,210            |
| 長期未収入金          | 0                | その他利益剰余金             | 491,410          |
| その他の投資          | 17,646           | 繰越利益剰余金              | 491,410          |
| 貸倒引当金           | △21,561          | <b>自 己 株 式</b>       | <b>△6,171</b>    |
| <b>資 産 合 計</b>  | <b>5,914,570</b> | 評価・換算差額等             | 431,789          |
|                 |                  | その他有価証券評価差額金         | 5,814            |
|                 |                  | 土地再評価差額金             | 425,975          |
|                 |                  | <b>純 資 産 合 計</b>     | <b>1,552,028</b> |
|                 |                  | <b>負 債 純 資 産 合 計</b> | <b>5,914,570</b> |

# 損益計算書

(2019年4月1日から  
2020年3月31日まで)

| 科 目          | 金 額       | 金 額       |
|--------------|-----------|-----------|
|              | 千円        | 千円        |
| 売 上 高        |           |           |
| 商品売上高        | 8,332,130 |           |
| 不動産賃貸収入      | 77,524    | 8,409,654 |
| 売 上 原 価      |           |           |
| 商品売上原価       | 7,126,445 |           |
| 不動産賃貸原価      | 32,376    | 7,158,822 |
| 売 上 総 利 益    |           | 1,250,832 |
| 販売費及び一般管理費   |           | 1,111,798 |
| 営業利益         |           | 139,034   |
| 営業外収益        |           |           |
| 受取利息及び配当金    | 12,215    |           |
| 為替差益         | 12,680    |           |
| 貸倒引当金戻入額     | 129       |           |
| その他の営業外収益    | 2,544     | 27,569    |
| 営業外費用        |           |           |
| 支払利息         | 6,181     |           |
| その他の営業外費用    | 840       | 7,021     |
| 経常利益         |           | 159,582   |
| 特別利益         |           |           |
| 投資有価証券売却益    | 100       | 100       |
| 特別損失         |           |           |
| 子会社株式評価損     | 25,934    | 25,934    |
| 税引前当期純利益     |           | 133,747   |
| 法人税、住民税及び事業税 | 53,609    |           |
| 法人税等調整額      | △5,105    | 48,504    |
| 当期純利益        |           | 85,242    |

# 株主資本等変動計算書

(2019年4月1日から  
2020年3月31日まで)

(単位：千円)

|                           | 株 主 資 本 |         |       |                     |         |        |           |
|---------------------------|---------|---------|-------|---------------------|---------|--------|-----------|
|                           | 資本金     | 資本剰余金   | 利益剰余金 |                     |         | 自己株式   | 株主資本合計    |
|                           |         | 資本準備金   | 利益準備金 | その他利益剰余金<br>繰越利益剰余金 | 利益剰余金合計 |        |           |
| 2019年4月1日期首残高             | 430,000 | 195,789 | 9,210 | 427,089             | 436,299 | △6,171 | 1,055,917 |
| 事業年度中の変動額                 |         |         |       |                     |         |        |           |
| 当期純利益                     |         |         |       | 85,242              | 85,242  |        | 85,242    |
| 剰余金の配当                    |         |         |       | △20,921             | △20,921 |        | △20,921   |
| 株主資本以外<br>の項目の変動額<br>(純額) |         |         |       |                     |         |        |           |
| 事業年度中の変動額合計               | —       | —       | —     | 64,320              | 64,320  | —      | 64,320    |
| 2020年3月31日期末残高            | 430,000 | 195,789 | 9,210 | 491,410             | 500,620 | △6,171 | 1,120,238 |

|                           | 評 価 ・ 換 算 差 額 等  |              |                | 純資産合計     |
|---------------------------|------------------|--------------|----------------|-----------|
|                           | その他有価証券<br>評価差額金 | 土地再評価<br>差額金 | 評価・換算<br>差額等合計 |           |
| 2019年4月1日期首残高             | 11,359           | 425,975      | 437,334        | 1,493,252 |
| 事業年度中の変動額                 |                  |              |                |           |
| 当期純利益                     |                  |              |                | 85,242    |
| 剰余金の配当                    |                  |              |                | △20,921   |
| 株主資本以外<br>の項目の変動額<br>(純額) | △5,544           | —            | △5,544         | △5,544    |
| 事業年度中の変動額合計               | △5,544           | —            | △5,544         | 58,775    |
| 2020年3月31日期末残高            | 5,814            | 425,975      | 431,789        | 1,552,028 |

## 個別注記表

### 1. 重要な会計方針に係る事項

#### (1) 有価証券の評価基準及び評価方法

##### ① 子会社株式及び関連会社株式

移動平均法による原価法によっております。

##### ② その他有価証券

時価のあるもの

事業年度末日の市場価格等に基づく時価法（評価差額は全部純資産直入法により処理し、売却原価は、移動平均法により算定）によっております。

時価のないもの

移動平均法による原価法によっております。

#### (2) デリバティブ取引により生じる正味の債権（及び債務）の評価基準及び評価方法

時価法

#### (3) たな卸資産の評価基準及び評価方法

主として移動平均法による原価法（貸借対照表価額については収益性の低下に基づく簿価切下の方法）

#### (4) 固定資産の減価償却の方法

##### ① 有形固定資産

定額法によっております。なお、主な耐用年数は以下のとおりであります。

建物 8～50年

ただし、取得価額100千円以上200千円未満の少額減価償却資産については、3年間の均等償却をしております。

##### ② 無形固定資産

定額法によっております。ただし、自社利用によるソフトウェアについては、社内における利用可能期間（5年）に基づく定額法によっております。

##### ③ リース資産

リース期間を耐用年数とし、残存価額を零とする定額法を採用しております。

#### (5) 引当金の計上基準

##### ① 貸倒引当金

売掛金、貸付金等期末現在に有する債権の貸倒れによる損失に備えるため、一般債権については貸倒実績率により、貸倒懸念債権等の特定の債権については個別に回収可能性を検討し、回収不能見込額を計上しております。

##### ② 賞与引当金

従業員に対する賞与の引当額として当事業年度に負担すべき翌期支給見込額を計上しております。

##### ③ 返品調整引当金

英語教科書等の取次出版物の返品による損失に備えるため、一定期間の売上高に返品実績率及び売買利益率を乗じて算出した損失見込額を計上しております。

##### ④ 退職給付引当金

従業員の退職給付に備えるため、当事業年度末における退職給付債務及び年金資産の見込額に基づき計上しております。数理計算上の差異は、その発生時の従業員の平均残存勤務期間以内の一定の年数(10年)による定率法により発生翌事業年度から費用処理することとしております。過去勤務費用は、その発生時の従業員の平均残存勤務期間以内の一定の年数(10年)による定額法により発生した事業年度から費用処理することとしております。

(6) その他計算書類作成のための基本となる事項

① 退職給付に係る会計処理

退職給付に係る未認識数理計算上の差異及び未認識過去勤務費用の未処理額の会計処理方法は、連結計算書類におけるこれらの会計処理と異なっております。

② 消費税及び地方消費税の会計処理の方法

税抜方式によっております。

## 2. 貸借対照表に関する注記

(1) 担保に供している資産及び担保に係る債務

① 担保に供している資産

|        |           |
|--------|-----------|
| 建 物    | 57,807千円  |
| 土 地    | 667,900千円 |
| 投資有価証券 | 47,932千円  |
| 計      | 773,640千円 |

② 担保に係る債務

|                |           |
|----------------|-----------|
| 短期借入金          | 700,000千円 |
| 一年以内返済予定の長期借入金 | 69,968千円  |
| 長期借入金          | 129,157千円 |
| 計              | 899,125千円 |

(2) 有形固定資産の減価償却累計額

672,885千円

(3) 関係会社に対する金銭債権、債務は次のとおりであります。

|          |           |
|----------|-----------|
| ① 短期金銭債権 | 286,890千円 |
| ② 短期金銭債務 | 314,306千円 |
| ③ 長期金銭債権 | 2,399千円   |

(4) 取締役、監査役に対する金銭債権及び金銭債務は次のとおりであります。

|         |          |
|---------|----------|
| 金 銭 債 務 | 15,280千円 |
|---------|----------|

(5) 土地の再評価

土地の再評価に関する法律（平成10年3月31日公布法律第34号）及び土地の再評価に関する法律の一部を改正する法律（平成13年3月31日公布法律第19号）に基づき、事業用土地の再評価を行い、土地再評価差額金を純資産の部に、税効果相当額（再評価に係る繰延税金負債）を負債の部に、それぞれ計上しております。

(イ) 再評価の方法

土地の再評価に関する法律施行令（平成10年3月31日公布政令第119号）第2条第5項に定める「不動産鑑定士による鑑定評価による方法」により算出しております。

(ロ) 再評価を行った年月日 2002年3月31日

3. 損益計算書に関する注記

関係会社との取引高

|              |             |
|--------------|-------------|
| ① 売上高        | 596,339千円   |
| ② 仕入高等       | 1,634,156千円 |
| ③ 営業取引以外の取引高 | 8,235千円     |

4. 株主資本等変動計算書に関する注記

自己株式の数に関する事項

| 株式の種類 | 当事業年度期首の株式数 | 当事業年度増加株式数 | 当事業年度減少株式数 | 当事業年度末の株式数 |
|-------|-------------|------------|------------|------------|
| 普通株式  | 2,603株      | －株         | －株         | 2,603株     |

5. 税効果会計に関する注記

繰延税金資産及び繰延税金負債の発生の主な原因別の内訳

繰延税金資産

|              |          |
|--------------|----------|
| 貸倒引当金        | 7,199千円  |
| 未払事業税・未払事業所税 | 3,858千円  |
| 棚卸資産評価損      | 5,137千円  |
| 賞与引当金        | 7,492千円  |
| 返品調整引当金      | 14,174千円 |
| 子会社株式評価損     | 7,941千円  |
| 退職給付引当金      | 48,703千円 |
| 役員退職慰労引当金    | 4,678千円  |
| その他          | 3,322千円  |

繰延税金資産小計 102,508千円

評価性引当金 △19,236千円

繰延税金資産合計 83,272千円

繰延税金負債

その他有価証券評価差額金（益） 2,566千円

繰延税金負債合計 2,566千円

繰延税金資産の純額 80,706千円

## 6. 関連当事者との取引に関する注記

親会社及び法人主要株主等

| 種類               | 会社等の名称        | 資本金又は出資金<br>(百万円) | 事業の<br>内容<br>又は職業                                                                                            | 議決権等の<br>所有<br>(被所有)<br>割合(%) | 関係内容       |             | 取引の内容       | 取引金額<br>(千円) | 科目         | 期末残高<br>(千円)       |
|------------------|---------------|-------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------|------------|-------------|-------------|--------------|------------|--------------------|
|                  |               |                   |                                                                                                              |                               | 役員の<br>兼任等 | 事業上<br>の関係  |             |              |            |                    |
| その他の<br>関係<br>会社 | 株式会社<br>トーハン  | 4,500             | ①書籍・雑誌・教科書等出版物の<br>販売と販売企画<br>②教育情報関連商品、<br>音楽関連用品等の販売と<br>販売企画<br>③情報処理、情報通信、<br>情報提供及びコンピュータ機<br>器の販売とその企画 | (被所有)<br>直接 21.50<br>間接 —     | なし         | 当社商品<br>の販売 | 当社商品<br>の販売 | 182,327      | 売掛金        | 114,854            |
|                  |               |                   |                                                                                                              |                               |            | 同社商品<br>の購入 | 同社商品<br>の購入 | 1,631,541    | 買掛金<br>未払金 | 313,960<br>270     |
| 法人主<br>要株主       | 丸善雄松堂<br>株式会社 | 100               | 出版物・文具、<br>OA機器等の<br>卸・小売業                                                                                   | (被所有)<br>直接 10.03<br>間接 —     | なし         | 当社商品<br>の販売 | 当社商品<br>の販売 | 1,166,319    | 売掛金<br>前受金 | 829,656<br>127,150 |
|                  |               |                   |                                                                                                              |                               |            | 同社商品<br>の購入 | 同社商品<br>の購入 | 23,082       | 買掛金        | 7,701              |

- (注) 1. 上記金額のうち取引金額には消費税を含んでおりません。期末残高には消費税等を含んでおります。  
 2. 取引条件ないし取引条件の決定方針等、商品の販売及び購入は全て一般の取引条件と同様であります。  
 3. 議決権等の所有(被所有)割合は、小数点第2位未満を切り捨てて表示しております。  
 4. 議決権等の所有(被所有)割合は、自己株式(2,603株)を控除して計算しております。

## 7. 1株当たり情報に関する注記

- (1) 1株当たり純資産額 2,225円46銭  
 (2) 1株当たり当期純利益 122円23銭

## 8. 重要な後発事象に関する注記

該当事項はありません。

## 9. 連結配当規制適用会社に関する注記

該当事項はありません。

## 10. その他の注記

該当事項はありません。



# 連結計算書類に係る会計監査報告

## 独立監査人の監査報告書

2020年5月15日

日本出版貿易株式会社

取締役会 御中

監査法人保森会計事務所  
東京都港区

代表社員 公認会計士 山崎 貴史 ⑩  
業務執行社員

代表社員 公認会計士 渡部 逸雄 ⑩  
業務執行社員

### 監査意見

当監査法人は、会社法第444条第4項の規定に基づき、日本出版貿易株式会社の2019年4月1日から2020年3月31日までの連結会計年度の連結計算書類、すなわち、連結貸借対照表、連結損益計算書、連結株主資本等変動計算書及び連結注記表について監査を行った。

当監査法人は、上記の連結計算書類が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、日本出版貿易株式会社及び連結子会社からなる企業集団の当該連結計算書類に係る期間の財産及び損益の状況を、全ての重要な点において適正に表示しているものと認める。

### 監査意見の根拠

当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準における当監査法人の責任は、「連結計算書類の監査における監査人の責任」に記載されている。当監査法人は、我が国における職業倫理に関する規定に従って、会社及び連結子会社から独立しており、また、監査人としてのその他の倫理上の責任を果たしている。当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

### 連結計算書類に対する経営者並びに監査役及び監査役会の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して連結計算書類を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない連結計算書類を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

連結計算書類を作成するに当たり、経営者は、継続企業的前提に基づき連結計算書類を作成することが適切であるかどうかを評価し、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に基づいて継続企業に関する事項を開示する必要がある場合には当該事項を開示する責任がある。

監査役及び監査役会の責任は、財務報告プロセスの整備及び運用における取締役の職務の執行を監視することにある。

## 連結計算書類の監査における監査人の責任

監査人の責任は、監査人が実施した監査に基づいて、全体としての連結計算書類に不正又は誤謬による重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得て、監査報告書において独立の立場から連結計算書類に対する意見を表明することにある。虚偽表示は、不正又は誤謬により発生する可能性があり、個別に又は集計すると、連結計算書類の利用者の意思決定に影響を与えると合理的に見込まれる場合に、重要性があると判断される。

監査人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に従って、監査の過程を通じて、職業的専門家としての判断を行い、職業的懐疑心を保持して以下を実施する。

- ・ 不正又は誤謬による重要な虚偽表示リスクを識別し、評価する。また、重要な虚偽表示リスクに対応した監査手続を立案し、実施する。監査手続の選択及び適用は監査人の判断による。さらに、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手する。
- ・ 連結計算書類の監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、監査人は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な監査手続を立案するために、監査に関連する内部統制を検討する。
- ・ 経営者が採用した会計方針及びその適用方法の適切性、並びに経営者によって行われた会計上の見積りの合理性及び関連する注記事項の妥当性を評価する。
- ・ 経営者が継続企業を前提として連結計算書類を作成することが適切であるかどうか、また、入手した監査証拠に基づき、継続企業の前提に重要な疑義を生じさせるような事象又は状況に関して重要な不確実性が認められるかどうか結論付ける。継続企業の前提に関する重要な不確実性が認められる場合は、監査報告書において連結計算書類の注記事項に注意を喚起すること、又は重要な不確実性に関する連結計算書類の注記事項が適切でない場合は、連結計算書類に対して除外事項付意見を表明することが求められている。監査人の結論は、監査報告書日までに入手した監査証拠に基づいているが、将来の事象や状況により、企業は継続企業として存続できなくなる可能性がある。
- ・ 連結計算書類の表示及び注記事項が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠しているかどうかとともに、関連する注記事項を含めた連結計算書類の表示、構成及び内容、並びに連結計算書類が基礎となる取引や会計事象を適正に表示しているかどうかを評価する。
- ・ 連結計算書類に対する意見を表明するために、会社及び連結子会社の財務情報に関する十分かつ適切な監査証拠を入手する。監査人は、連結計算書類の監査に関する指示、監督及び実施に関して責任がある。監査人は、単独で監査意見に対して責任を負う。

監査人は、監査役及び監査役会に対して、計画した監査の範囲とその実施時期、監査の実施過程で識別した内部統制の重要な不備を含む監査上の重要な発見事項、及び監査の基準で求められているその他の事項について報告を行う。

監査人は、監査役及び監査役会に対して、独立性についての我が国における職業倫理に関する規定を遵守したこと、並びに監査人の独立性に影響を与えると合理的に考えられる事項、及び阻害要因を除去又は軽減するためにセーフガードを講じている場合はその内容について報告を行う。

## 利害関係

会社及び連結子会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

# 計算書類に係る会計監査報告

## 独立監査人の監査報告書

2020年5月15日

日本出版貿易株式会社

取締役会 御中

監査法人保森会計事務所  
東京都港区

代表社員 公認会計士 山崎 貴史 ⑩  
業務執行社員  
代表社員 公認会計士 渡部 逸雄 ⑩  
業務執行社員

### 監査意見

当監査法人は、会社法第436条第2項第1号の規定に基づき、日本出版貿易株式会社の2019年4月1日から2020年3月31日までの第79期事業年度の計算書類、すなわち、貸借対照表、損益計算書、株主資本等変動計算書及び個別注記表並びにその附属明細書（以下「計算書類等」という。）について監査を行った。

当監査法人は、上記の計算書類等が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、当該計算書類等に係る期間の財産及び損益の状況を、全ての重要な点において適正に表示しているものと認める。

### 監査意見の根拠

当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準における当監査法人の責任は、「計算書類等の監査における監査人の責任」に記載されている。当監査法人は、我が国における職業倫理に関する規定に従って、会社から独立しており、また、監査人としてのその他の倫理上の責任を果たしている。当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

### 計算書類等に対する経営者並びに監査役及び監査役会の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して計算書類等を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない計算書類等を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

計算書類等を作成するに当たり、経営者は、継続企業の前提に基づき計算書類等を作成することが適切であるかどうかを評価し、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に基づいて継続企業に関する事項を開示する必要がある場合には当該事項を開示する責任がある。

監査役及び監査役会の責任は、財務報告プロセスの整備及び運用における取締役の職務の執行を監視することにある。

#### 計算書類等の監査における監査人の責任

監査人の責任は、監査人が実施した監査に基づいて、全体としての計算書類等に不正又は誤謬による重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得て、監査報告書において独立の立場から計算書類等に対する意見を表明することにある。虚偽表示は、不正又は誤謬により発生する可能性があり、個別に又は集計すると、計算書類等の利用者の意思決定に影響を与えると合理的に見込まれる場合に、重要性があると判断される。

監査人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に従って、監査の過程を通じて、職業的専門家としての判断を行い、職業的懐疑心を保持して以下を実施する。

- ・ 不正又は誤謬による重要な虚偽表示リスクを識別し、評価する。また、重要な虚偽表示リスクに対応した監査手続を立案し、実施する。監査手続の選択及び適用は監査人の判断による。さらに、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手する。
- ・ 計算書類等の監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、監査人は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な監査手続を立案するために、監査に関連する内部統制を検討する。
- ・ 経営者が採用した会計方針及びその適用方法の適切性、並びに経営者によって行われた会計上の見積りの合理性及び関連する注記事項の妥当性を評価する。
- ・ 経営者が継続企業を前提として計算書類等を作成することが適切であるかどうか、また、入手した監査証拠に基づき、継続企業の前提に重要な疑義を生じさせるような事象又は状況に関して重要な不確実性が認められるかどうか結論付ける。継続企業の前提に関する重要な不確実性が認められる場合は、監査報告書において計算書類等の注記事項に注意を喚起すること、又は重要な不確実性に関する計算書類等の注記事項が適切でない場合は、計算書類等に対して除外事項付意見を表明することが求められている。監査人の結論は、監査報告書日までに入手した監査証拠に基づいているが、将来の事象や状況により、企業は継続企業として存続できなくなる可能性がある。
- ・ 計算書類等の表示及び注記事項が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠しているかどうかとともに、関連する注記事項を含めた計算書類等の表示、構成及び内容、並びに計算書類等が基礎となる取引や会計事象を適正に表示しているかどうかを評価する。

監査人は、監査役及び監査役会に対して、計画した監査の範囲とその実施時期、監査の実施過程で識別した内部統制の重要な不備を含む監査上の重要な発見事項、及び監査の基準で求められているその他の事項について報告を行う。

監査人は、監査役及び監査役会に対して、独立性についての我が国における職業倫理に関する規定を遵守したこと、並びに監査人の独立性に影響を与えると合理的に考えられる事項、及び阻害要因を除去又は軽減するためにセーフガードを講じている場合はその内容について報告を行う。

#### 利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

## 監査役会の監査報告

### 監 査 報 告 書

当監査役会は、2019年4月1日から2020年3月31日までの第79期事業年度の取締役の職務の執行に関して、各監査役が作成した監査報告書に基づき、審議の上、本監査報告書を作成し、以下のとおり報告いたします。

#### 1. 監査役及び監査役会の監査の方法及びその内容

- (1) 監査役会は、監査の方針、職務の分担等を定め、各監査役から監査の実施状況及び結果について報告を受けるほか、取締役等及び会計監査人からその職務の執行状況について報告を受け、必要に応じて説明を求めました。
- (2) 各監査役は、監査役会が定めた監査役監査の基準に準拠し、監査の方針、職務の分担等に従い、取締役、内部監査部門その他の使用人等と意思疎通を図り、情報の収集及び監査の環境の整備に努めるとともに、以下の方法で監査を実施しました。
  - ① 取締役会その他重要な会議に出席し、取締役及び使用人等からその職務の執行状況について報告を受け、必要に応じて説明を求め、重要な決裁書類等を閲覧し、本社及び主要な事業所において業務及び財産の状況を調査いたしました。また、子会社については、子会社の取締役及び監査役等と意思疎通及び情報の交換を図り、必要に応じて子会社から事業の報告を受けました。
  - ② 事業報告に記載されている取締役の職務の執行が法令及び定款に適合することを確保するための体制その他株式会社及びその子会社から成る企業集団の業務の適正を確保するために必要なものとして会社法施行規則第100条第1項及び第3項に定める体制の整備に関する取締役会決議の内容及び当該決議に基づき整備されている体制(内部統制システム)について、取締役及び使用人等からその構築及び運用の状況について定期的に報告を受け、必要に応じて説明を求め、意見を表明いたしました。
  - ③ 会計監査人が独立の立場を保持し、かつ、適正な監査を実施しているかを監視及び検証するとともに、会計監査人からその職務の執行状況について報告を受け、必要に応じて説明を求めました。また、会計監査人から「職務の遂行が適正に行われることを確保するための体制」(会社計算規則第131条各号に掲げる事項)を「監査に関する品質管理基準」(平成17年10月28日企業会計審議会)等に従って整備している旨の通知を受け、必要に応じて説明を求めました。

以上の方法に基づき、当該事業年度に係る事業報告及びその附属明細書、計算書類(貸借対照表、損益計算書、株主資本等変動計算書及び個別注記表)及びその附属明細書並びに連結計算書類(連結貸借対照表、連結損益計算書、連結株主資本等変動計算書及び連結注記表)について検討いたしました。

## 2. 監査の結果

### (1) 事業報告等の監査結果

- ① 事業報告及びその附属明細書は、法令及び定款に従い、会社の状況を正しく示しているものと認めます。
- ② 取締役の職務の執行に関する不正の行為又は法令もしくは定款に違反する重大な事実は認められません。
- ③ 内部統制システムに関する取締役会決議の内容は相当であると認めます。また、当該内部統制システムに関する事業報告の記載内容及び取締役の職務の執行についても、財務報告に係る内部統制を含め、指摘すべき事項は認められません。

### (2) 計算書類及びその附属明細書の監査結果

会計監査人 監査法人保森会計事務所の監査の方法及び結果は相当であると認めます。

### (3) 連結計算書類の監査結果

会計監査人 監査法人保森会計事務所の監査の方法及び結果は相当であると認めます。

2020年5月19日

日本出版貿易株式会社 監査役会

常勤監査役 宮 川 修 ⑩

社外監査役 片 岡 義 正 ⑩

社外監査役 釜 井 隆 介 ⑩

以 上

# 株主総会参考書類

## 第1号議案 剰余金の処分の件

当社は、株主の皆様に対する利益還元を経営の重要施策と位置づけており、業績、配当性向並びに企業体質の強化と今後の事業展開に必要な内部留保等を考慮し、株主の皆様に対する利益還元を行うことを基本方針としながら、今後の事業展開等を勘案して、以下のとおり配当したいと存じます。

### 期末配当に関する事項

#### (1) 配当財産の種類

金銭

#### (2) 配当財産の割当てに関する事項及びその総額

当社普通株式1株につき、金30円

配当総額20,921,910円

#### (3) 剰余金の配当が効力を生じる日

2020年6月26日

## 第2号議案 定款一部変更の件

### 1. 提案の理由

取締役及び監査役が、その期待される役割を十分に発揮できるよう会社法第426条第1項の規定に基づき、取締役会の決議によって法令の定める限度において責任を免除することができる旨の規定を新設するとともに、「会社法の一部を改正する法律」（平成26年法律第90号）の施行により、新たに業務執行取締役等でない取締役及び社外監査役でない監査役との間でも責任限定契約を締結することが認められたことにとともに、適切な人材の招聘を容易にし、期待される役割を十分に発揮できるようにするため、変更案第28条（取締役の責任免除）を新設し、現行定款第34条（社外監査役との責任限定契約）の変更を行うものであります。なお、変更案第28条（取締役の責任免除）の新設に関しましては、各監査役の同意を得ております。

### 2. 変更の内容

変更の内容は、次のとおりであります。

（下線は変更部分を示します。）

| 現 行 定 款                                                                                                                                                                          | 変 更 案                                                                                                                                                                                                   |
|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <p>第4章 取締役及び取締役会<br/>第18条～第27条（条文省略）</p> <p>（新 設）</p>                                                                                                                            | <p>第4章 取締役及び取締役会<br/>第18条～第27条（現行どおり）</p> <p><u>第28条（取締役の責任免除）</u><br/>当社は、会社法第427条第1項の規定により取締役（業務執行取締役等であるものを除く。）との間に、<u>任務を怠ったことによる損害賠償責任を限定する契約を締結することができる。但し、当該契約に基づく賠償責任の限度額は、法令が規定する額とする。</u></p> |
| <p>第5章 監査役及び監査役会<br/>第28条～第33条（条文省略）</p> <p>第34条（社外監査役の責任免除）<br/>当社は、会社法第427条第1項の規定により<u>社外監査役との間に、任務を怠ったことによる損害賠償責任を限定する契約を締結することができる。但し、当該契約に基づく賠償責任の限度額は、法令が規定する額とする。</u></p> | <p>第5章 監査役及び監査役会<br/>第29条～第34条（現行どおり）</p> <p>第35条（監査役の責任免除）<br/>当社は、会社法第427条第1項の規定により監査役との間に、<u>任務を怠ったことによる損害賠償責任を限定する契約を締結することができる。但し、当該契約に基づく賠償責任の限度額は、法令が規定する額とする。</u></p>                           |
| <p>第35条～第40条（条文省略）</p>                                                                                                                                                           | <p>第36条～第41条（現行どおり）</p>                                                                                                                                                                                 |



### 第3号議案 取締役4名選任の件

取締役全員（4名）は、本総会終結の時をもって任期満了となります。つきましては、取締役4名の選任をお願いするものであります。

取締役候補者は次のとおりであります。

| 候補者番号 | ふりがな氏名<br>(生年月日)                  | 略歴、地位、担当<br>(重要な兼職の状況)                                                                                                                                                                                                                                                                                     | 所有する<br>当社株式数 |
|-------|-----------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------|
| 1     | あやもりとよひこ<br>綾森豊彦<br>(1961年3月21日)  | 1983年4月 株式会社鳥羽洋行 入社<br>1986年3月 日神不動産株式会社 入社<br>1998年4月 当社ニューメディア二部長<br>2003年11月 当社代表取締役常務<br>2004年3月 当社代表取締役社長<br>2007年6月 当社代表取締役会長<br>2008年4月 当社代表取締役常務<br>2013年4月 当社代表取締役社長、現在に至る<br>2013年6月 JPT EUROPE LTD. 代表取締役、現在に至る<br>2013年6月 HAKUBUNDO, INC. 代表取締役、現在に至る<br>2020年1月 JPT AMERICA, INC. 代表取締役、現在に至る | 4,100株        |
| 2     | こんどうりゅういち<br>近藤隆一<br>(1959年9月14日) | 1983年4月 東京出版販売株式会社(現:株式会社トーハン) 入社<br>2000年6月 株式会社トーハン総合企画部マネージャー<br>2008年4月 TMH(トーハンメディアホールディングス)ゼネラルマネージャー<br>2009年6月 株式会社トーハン取締役総務人事部長<br>2010年6月 株式会社トーハン・メディア・ウェイブ取締役<br>2010年6月 当社常務取締役、現在に至る                                                                                                         | 3,000株        |

| 候補者<br>番号 | ふ<br>氏<br>り<br>が<br>な<br>名<br>(生年月日) | 略歴、地位、担当<br>(重要な兼職の状況)                                                                                                                                                                                                         | 所有する<br>当社株式数 |
|-----------|--------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------|
| 3         | まつ なみ こう じ<br>松 並 恒 次<br>(1970年2月1日) | 1998年4月 当社ニューメディア二部仕入課長<br>2001年4月 当社メディア部次長兼メディア部仕入<br>課長<br>2010年4月 当社仕入販促部長<br>2011年6月 当社取締役商品統括部長<br>2012年7月 当社取締役仕入事業部担当<br>2020年4月 当社取締役商品本部担当、現在に至る                                                                     | 3,600株        |
| 4         | はやし やす ひこ<br>林 恭 彦<br>(1970年8月11日)   | 2000年8月 当社メディア部営業課長<br>2004年4月 当社国内営業二部次長兼国内営業二部<br>営業一課課長兼国内営業二部営業三課<br>課長<br>2010年4月 当社国内営業二部長<br>2011年6月 当社取締役営業推進部長<br>2012年7月 当社取締役国内事業部担当<br>2020年1月 JPT FRANCE S. A. R. L. 代表取締役、現在<br>に至る<br>2020年4月 当社取締役営業本部担当、現在に至る | 3,500株        |

(注) 各候補者と当社との間には、特別の利害関係はありません。

#### 第4号議案 監査役2名選任の件

監査役3名のうち宮川修、片岡義正の2氏が、本総会終結の時をもって任期満了となります。つきましては、監査役2名の選任をお願いするものであります。

なお、本議案につきましては、監査役会の同意を得ております。

監査役候補者は次のとおりであります。

| 候補者番号  | ふ り が な<br>氏 名<br>(生 年 月 日)            | 略歴、地位<br>(重要な兼職の状況)                                                                                                                                                                      | 所有する<br>当社株式数 |
|--------|----------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------|
| 1      | かた おか よし まさ<br>片 岡 義 正<br>(1958年11月1日) | 1982年2月 甲斐税務会計事務所 入社<br>1986年10月 株式会社新日本証券調査センター<br>経営研究所 入社<br>1987年1月 税理士登録<br>1990年10月 片岡税理士事務所開業<br>1997年1月 天馬株式会社監査役<br>2004年6月 当社社外監査役、現在に至る<br>2015年6月 天馬株式会社取締役(監査等委員)、<br>現在に至る | 2,600株        |
| ※<br>2 | か のう やす なお<br>狩 野 泰 直<br>(1963年11月21日) | 1992年3月 財団法人企画経営通信学院 入職<br>2004年3月 当社経理部入社<br>2018年6月 当社経理部長代理、現在に至る                                                                                                                     | 200株          |

(注) 1. ※印は、新任の監査役候補者であります。

2. 片岡義正氏は、社外監査役候補者であります。

3. 各候補者と当社との間には、特別の利害関係はありません。

4. 片岡義正氏は、税理士として活躍されており、税務面を中心とした客観的・中立的な監査業務が期待されることから、過去に社外取締役または社外監査役となること以外の方法で会社の経営に関与された経験はありませんが、社外監査役候補者として適任であると考えております。

5. 狩野泰直氏は、経理部門に長く籍を置き、当社グループの経理財務に関する経験・実績・見識を有しており、適切な監査の執行と監査体制の強化が期待できることから、監査役候補者として適任であると考えております。

6. 片岡義正氏は、当社の監査役に就任して16年が経過しております。

7. 当社は片岡義正氏を、東京証券取引所の定めに基づく独立役員として指定し、同取引所に届け出ております。なお、同氏の再任が承認された場合には、引き続き独立役員とする予定であります。

8. 片岡義正氏が監査役に再任された場合は、会社法第427条第1項の規定に基づき、同法第423条第1項の損害賠償責任を限定する契約を継続する予定であり、当該契約に基づく賠償責任限度額は法令が規定する最低責任限度額であります。

以 上

# 会場ご案内図



神保町（東京メトロ半蔵門線、都営地下鉄新宿線・三田線）A5出口より徒歩2分